

第1回 談話会

日時：2026年5月29日（金）17：30～19：30

場所：神奈川歯科大学附属病院 12階 講堂

顎変形症の診断と治療は どうあるべきか

— 基礎から臨床へ、そして三次元治療計画へ —

講師：高木 多加志 先生

東京歯科大学千葉歯科医療センター臨床教授



2007年5月 東京歯科大学 口腔顎顔面外科学講座 准教授
2011年10月 東京歯科大学・病院教授
2016年4月 日本口腔外科学会 指導医（終身）
2020年4月 東京歯科大学 客員教授、
市川総合病院・千葉歯科医療センター勤務
2025年4月 東京歯科大学千葉歯科医療センター 臨床教授

顎変形症という疾患を考えると、顎変形症が「歯」の問題だけではなく「骨格」の病気であることを理解することが重要である。その診断は、骨格・歯・顔貌（軟組織）そして機能の4要素を三次元的にどう調和させるかという設計図を描きゴールを目指すことが基本となる。さらに、手術の安全性と術後の安定性、機能的には睡眠時無呼吸症候群のリスク、下顎頭の変形による後戻りリスクを予測する必要があり、矯正歯科・口腔外科がそれぞれ単独で完結するものではなく、チーム医療により「どう並べたいか」を考える矯正歯科医と、「どう骨を切りたいか」を考える口腔外科医が各種資料をもとに治療ゴールを共有することが最も重要な点である。顎変形症の審美的な回復も含めて、なぜ治療が必要なのか、治療目標はどこにおくべきなのかを口腔外科医の立場からお話ししたいと思う。

担当部署： 歯科矯正学講座、口腔外科学講座

神奈川歯科大学学会